



VMware vSphere®ユーザーのための クラウド移行のポイント

**今のオンプレミスのVMware製品により仮想化したサーバーを
そのままクラウドに移行して使い続けるにはどうしたらいいのか**

仮想サーバー上の現行システムは手を加えずに利用を続け、ハードウェアのみパブリッククラウドへのリプレイスしたいという方に向けて、VMware環境のアプリケーション移行を行った際によせられたよくある質問や注意すべきポイントをまとめました。

目次

はじめに	3
3つのVMware環境 移行パターン	4
VMware環境 移行手順	5
移行作業の見積もりを実施する	6
移行作業の見積もり	7
インポート可能OSを確認する	7
Windows Server 2003 R2系、Windows 2000 Server系のインポート	7
Microsoft製品を持ち込む場合の注意事項を確認する	7
VMware環境のエクスポート	8
インポート可能サーバーの仕様・条件を確認する	9
仮想ディスクデバイスが単一ディスクかどうか確認する	10
VMware環境のインポート	12
インポート後の仮想ディスクの容量と料金	12
VMインポートとディスク受取サービスの特長	12
VMインポートとディスク受取サービスの選び方	14
コントロールパネルからのVMインポート方法を確認する	14
移行計画策定時にチェックしておくべきこと	16
移行計画にあたり、必要な工数を十分に確認する	12
さいごに	17

はじめに

増え続けるVMware環境の仮想サーバーとハードウェア

2012年に仮想マシンの出荷台数が物理サーバーの出荷台数を上回り、年々サーバーの仮想化が進んでいます。

2015年以降は、VMware製品により仮想化したサーバー基盤（ハードウェア）がリースアップや保守期限を向かえ、リプレイスが必要となるケースも増えてきました。

今のオンプレミスのVMware製品により仮想化したサーバーをそのままクラウドに移行して使い続けたい

クラウド化にあたり、一番多いお客様の声は、現在ご利用中のVMware製品により仮想化したサーバーをそのままクラウド化し利用し続けたいというものです。例えば次のようなご利用例があります。

- ・ Windows Server 2003など、サポートが終了したOSをやむを得ず利用し続けなくてはならない
- ・ 担当者の退職により、業務システムの新規構築手順が不明のため今の環境を使い続けたい

VMware vSphere®ベースのパブリッククラウドなら今のVMware製品により仮想化したサーバーをそのままクラウド化できる

なぜニフクラが選ばれるのか。それは、ニフクラがVMware vSphere®ベースのパブリッククラウドであり、現在ご利用中のVMware製品により仮想化したサーバーをそのままクラウド化し利用し続けることができるからです。

ニフクラは、基盤となるハードウェアを独自のコントロールパネルで抽象化しています。そのため、VMware vCenter®によるハードウェアの管理から開放されます。ハイパーバイザーにVMware ESXi™を採用し、自動フェイルオーバー（HA）とDRSが標準で実装されています。

また、スナップショットやDRサービスなど VMware vSphere® の特長的な機能はもちろん、移行に必要なVMインポート機能も提供されています。

2010年のサービス開始からVMware製品により仮想化されたパブリッククラウド環境を8年以上提供しており、国内はもちろん、アジアでもトップシェアの運用実績と、利用実績があります。

保守期限切れのハードウェアのパブリッククラウド化が増加

そしてサーバー基盤のリプレイスにあたり、ハードウェア（オンプレミス）をパブリッククラウドにする、クラウド化を検討する方も年々増加しています。クラウド化によって、その後のリプレイスや障害対応などハードウェアの保守運用作業を行う必要がなくなるからです。

では、VMwareで仮想化されたサーバーのクラウド化にあたり、一番多い要望とはどんな声でしょうか。

このように、「サーバー環境はクラウド化したい、しかしながら、サーバー上の業務アプリの再構築や改修は避けたい」というお客様が数多くいらっしゃいます。

理由や背景はさまざまですが、システムの動作環境を変えるだけのためにアプリケーションの改修費用や人的負荷が発生するのは合理的ではない、現行システムは手を加えずに利用を続け、ハードウェアのみパブリッククラウドへのリプレイスをしたい、というお客様の本音がそこにはあります。

そのような、システム移行でお悩みのお客様にもご好評をいただいているのが、富士通クラウドテクノロジーズが提供する、VMwareベースのパブリッククラウド「NIFCLOUD（ニフクラ）」です。

そのため、現在利用中のVMware製品により仮想化したサーバーをスムーズに移行し、さらに安心して今までと同じように利用し続けることが可能です。

しかし、ニフクラにVMware製品により仮想化したサーバーの移行を成功させるためには、計画段階に考慮しておくべきポイントを押さえ、実際にインポート作業を行う前の適合作業が必要となります。

このeBookでは、これまでVMインポート機能を利用してVMware環境の移行を行った際に、相談会や相談窓口によせられたよくある質問や、はまりやすいポイントをまとめました。

現在ご利用中のVMware製品により仮想化したサーバーのクラウド化をスムーズに行うため、ぜひ本書をお役立てください。

3つのVMware環境 移行パターン

クラウド化された仮想化環境への移行パターンにはどのようなものがあるのでしょうか。VMware 製品によるサーバー仮想化が行われていない場合も考慮すると、3 つの移行のパターンがあります。

1.V2C (Virtual to Cloud) 移行

現在オンプレ上で稼動している仮想サーバーを、移行ツールを利用してそのままクラウド環境に移行する方式です。

2.P2V2C (Physical to Virtual to Cloud) 移行

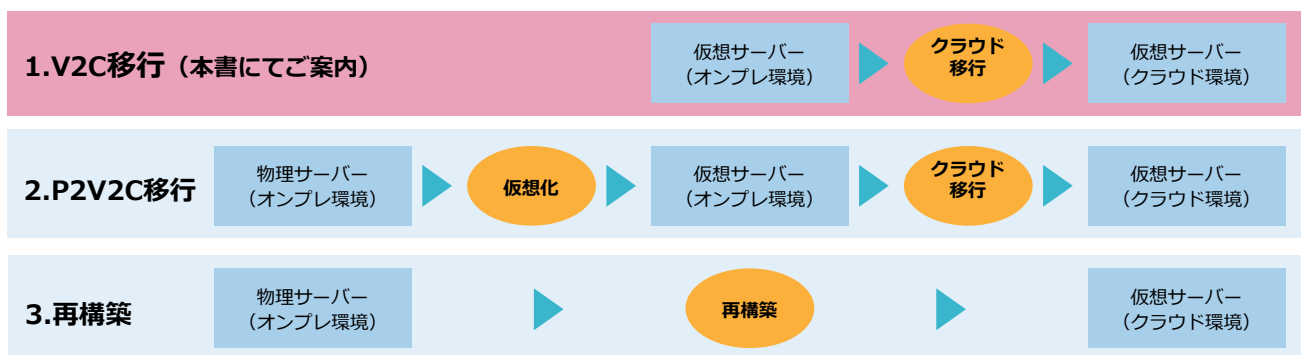
移行ツールを利用し、物理サーバーを仮想サーバーに変換し

た後、クラウド環境に移行する方式です。

3.再構築

移行ツールが利用できない場合に、クラウド環境の仮想サーバー上に OS を再構築してデータを移行する方式です。

このうち、本書でご案内するのは、ハードウェアがオンプレミスでサーバーが VMware 製品で仮想化されている「1.V2C 移行」です。



ご参考：サーバーの仮想化が行われていない場合

VMware製品での仮想化が行われていない場合は「2.P2V2C移行」となります。クラウド化の前に、VMware 環境への仮想化を行う必要があります。

P2V作業は、VMware vCenter® Converter™にて行います。VMware vCenter® Converter™ は、VMware社が無償で提供している変換ツールです。VMware VMware vCenter® Converterを利用すると、Windows および Linux ベースの物理マシンとサードパーティのイメージフォーマットを VMware vSphere®上で稼働可能な仮想マシンに変換することができます。

- ▷ VMware VMware vCenter® Converter ダウンロード
<http://www.vmware.com/jp/products/converter/>
- ▷ 参考資料：VMware Blogs
<https://blogs.vmware.com/jp-cim/2014/09/vi-p2v-v2v-migration2.html>
- ▷ ドキュメント：VMware VMware vCenter® Converter Standalone のドキュメント
http://www.vmware.com/jp/support/support-resources/pubs/converter_pubs

※P2V作業はニフクラのサポート対象外となっております。
クラウド化の前にお客様自身での仮想化（P2V）作業が必要となります。



VMware環境 移行の手順

VMware環境の移行は、移行計画の策定、移行作業の見積もり、リハーサル、本番移行の4つに分かれます。

1. 移行計画の策定

プロジェクト全体計画を策定します。まずは、移行する仮想サーバーはどれか範囲・規模を決めます。そしてスケジュールは、移行作業の見積もり・リハーサル・本番移行の3つの工程を含め、余裕のある日程を組みましょう。

2. 移行作業の見積もり

サーバータイプごとに小規模（1サーバー分）での現状サーバーの調査・OVFファイルの適合作業・エクスポート・インポートといった本番環境と同様の手順を実際に行います。

この手順によって、実際の工程で発生するエラーを洗い出すことができます。そして作業見積もりの段階で、エラーに気が

つき、対応を行うことになるため、本番時のスムーズな移行が可能となります。また、作業時間やファイルの転送時間・変換時間を把握することができます。

作業見積もりで行ったサーバー容量や作業時間を参考に、全体の作業に必要な時間を割り出します。また、ニフクラのインポート方法には、コントロールパネルからのインポートと「ディスク受取サービス」を利用したインポートの2種類がありますが、本番時にはどちらのインポート方法を採用するかを決めます。そして、費用の見積もりと本番移行のスケジュールを策定します。

3. リハーサル

本番移行と同様の環境でリハーサルを実施します。

4. 本番環境の移行

本番環境にて、実際の移行作業を行います。

1. 移行計画の策定

2. 移行作業の見積もり

移行元サーバーの調査

CPU/memory/HDD等のリソースの確認、ミドルウェア使用方法の確認、バックアップ内容の確認、ネットワーク環境の調査

移行先クラウドサーバーの選定

必要リソースの見積もり、サーバーの選定

インポート、エクスポートの検証

サーバーの用途ごとに1サーバーを移行、作業・転送時間を逆算、2つのインポート方法のうちどちらにするか決定

手順・工数・仕様確認

手順の確立、所要時間の見積もり、制限事項の有無の確認、バックアップ方式設計

3. リハーサル

エクスポート

インポート

設定作業の検証

4. 本番環境の移行

エクスポート

インポート

設定作業

稼動確認、引渡し

VMware環境 移行の手順

移行作業の見積もりを実施する

移行作業の見積もりはなぜ必要なのか？

見積もりの工程を考慮せずに移行計画を策定してしまうと、本番移行時に次のような事態を招く恐れがあります。

- ☑ サーバーのエクスポート・インポートに必要な時間の見積もりができていないため、作業時間がかかり、移行スケジュール全体が遅れてしまう
- ☑ インポート後の検証環境を用意できないため、お客様にて実施するクラウドに移行後のアプリの動作検証作業が事前に実施できない
- ☑ エクスポート・インポート作業中に制限事項や制約事項に抵触し、移行作業を進めることができず、作業が手戻りしてしまう

移行作業の見積もり時に本番移行と同様にエクスポートやインポートの手順を行うことで、それぞれの工程で発生する予期せぬ事態を事前に洗い出し、対応することができます。作業時間やファイルの転送時間・変換時間の見積もりも可能となり、精度の高い移行計画を策定することができます。結果、本番時のスムーズな移行が実現します。

本番環境の移行も含め、一番重要な手順が移行作業の見積もりの実施です。

本番環境の移行の前に必ず、移行内容を小規模に絞り、作業の見積もりを行いましょう。

移行作業の見積もり

まずはじめに、クラウドへ移行する仮想サーバーの現状調査を行います。現状のサーバーのOSや仕様が、移行先のクラウドで検証済みか、仕様の条件に合っているかを確認します。

インポート可能OSを確認する

ニフクラでインポート後の動作を検証済みのOSは、Web仕様ページをご確認ください。

- ▷ 基本ディスク容量は80GB（Windowsサーバーの場合）
<https://cloud.nifty.com/service/vmimport.htm#feature>

お客様が保有する「Red Hat Enterprise Linux サブスクリプション」のOSイメージをニフクラに持ち込み、引き続き利用する場合には、「Red Hat Cloud Access」が必要となります。

Windows Server 2003 R2系、Windows 2000 Server系のインポート

Windows Server 2003 R2系、Windows 2000 Server系は、OSのサポートが終了しておりニフクラの動作保証外OSですが、SPLAではダウングレード権が適用されるため、インポート可能です。やむを得ずサポート終了OSのクラウド移行が必要な場合、インポートの実績もございますのでご相談ください。

インポートにあたりOSにVMware Tools™のインストールが必要となります。Windows Server 2003 R2系、Windows 2000 Server系で、VMwareTools10系をインストールすると、VMware vCenter™上、ニフクラコンパネ上共に、IPアドレスが表示されない不具合が確認されています。

そのため、VMwareToolsは9系を適用ください。

Microsoft製品を持ち込む場合の注意事項を確認する

Microsoft製品をニフクラに持ち込み引き続き利用する場合には、いくつかの注意点があります。

Windows Server OSのライセンス持ち込みは不要です

Windows系OSをVMインポートで持ち込んだ場合、OSのライセンスとしてニフクラのSPLAライセンスが自動で適用されます。そのため、Windows Serverを利用する場合ライセンスの持ち込みは不要で、持ち込みの料金も発生しません。しかし、ニフクラのサーバー料金以外にOS利用料が別途発生いたします。

※Microsoft Officeのライセンスの持ち込みはお客様側での持ち込みをご検討の場合には、お客様とMicrosoft社とのライセンス契約に準じるため、お客様自身でMicrosoft社へのお問い合わせをお願いいたします。

その他 Microsoft製品のライセンス(SQL Server等)

ご利用いただくニフクラのサーバー環境によって利用条件や利用に必要な手順が異なります。

下記Webページにて、持込可否、持込方法をご確認ください。また、詳細については貴社のMicrosoft営業担当者にお尋ねください。

- ▷ FAQ：ニフクラ上にMicrosoft製品を導入する場合の注意点はありますか？
http://cloud.nifty.com/cs/catalog/cloud_faq/catalog_120416000842_1.htm

VMware環境のエクスポート

エクスポートは、VMインポート時に利用するOVFファイルを作成する作業です。この作業は、ニフクラのサポート対象外です。VMware vSphereドキュメントセンターの情報を参考にお客様に行ってください。

VMインポートするOVFファイルはニフクラのVMインポートサービスの仕様に準拠している必要があります。OVFファイルがニフクラのVMインポートサービスの仕様に準拠していないと、インポート時にエラーが発生しインポートに失敗したり、起動時に失敗する場合があります。

ニフクラのインポート方法は、「VMインポート」と「ディスク受取サービス」の2つがあります。

☒ **VMインポート：**

コントロールパネルにログイン後、OVFファイルを自分でインポートします

☒ **ディスク受取サービス**

大容量ファイルをオフライン郵送し、ニフクラ側でインポート作業を行います

ディスク受取サービスは有償です。本番移行でディスク受取サービスをご利用予定の場合でも、リハーサル時は規模を縮小して、コントロールパネルからのVMインポートで行い、エラーが発生しないことをご確認ください。

インポート方法によってインポート可能なサーバー仕様が異なりますのでエクスポートの適合作業・エクスポート作業前に必ず、Web仕様ページ・仕様書の記載内容をご確認ください。

- ▷ VMイメージの作成方法について
http://cloud.nifty.com/guide/cp/server_vm_new.htm
- ▷ VMインポート仕様・機能
<https://cloud.nifty.com/service/vmimport.htm>
- ▷ VMインポート（ディスク受取サービス）サービス仕様書1.5 版
https://cloud.nifty.com/pdf/post_spec.pdf

VMware環境のエクスポート

インポート可能サーバーの仕様・条件を確認する

インポート可能サーバーの使用に関する制限事項について、これまでに寄せられた質問やお問い合わせの中で多かったものを、Webページと仕様書から抜粋しました。インポート方式検討時に、ドキュメントとあわせてご参考ください。

- ☑ インポートするサーバーイメージには、VMwareToolsがインストールされている必要があります。エクスポート前の適合作業において、最新のVMwareToolsをインストールしてください。
- ☑ 32bit版のOSをインポートされる場合、4GB以上のメモリを選択しても実際の使用量は3.5GB程度になります。
- ☑ インポートするサーバーにIPアドレスが固定で振られている場合、動的に取得するよう設定を変更する必要があります。
- ☑ VMインポートは、1IDにつき1セッションを推奨しています。1セッション以上のセッションを行った場合、インポートの制限がかかる場合があります。移行作業の見積もり時にお客様の環境では、何GBのOVFファイルが○時間かかったかを計測し、本番時インポートに必要な時間の見積もりをしてください。
- ☑ ディスクを暗号化しているVMイメージは、インポートすることができません。エクスポート前に、暗号化を解除してからVMイメージの作成、エクスポートを行う必要があります。
- ☑ ディスク受け取りサービスをご利用の場合は、インポート後、VMwareToolsの自動更新は、無効になります。
- ☑ CD-ROMのマウント方式は、IDEパススルーに設定されます
- ☑ VMインポートされたサーバーイメージは、ニフクラに合わせた構成に変更されます
- ☑ インポート時、MACアドレスの固定化をはじめとしたサーバーとしての個別設定やゲストOS上の設定などは、ニフクラに合わせた設定に変更されます
- ☑ VMインポート機能を利用して作成したサーバー上では、VMwareToolsによる時刻同期設定がDisableになります。公式FAQの手順を元に、必要に応じてEnableに変更が必要となります。
- ☑ 増設ディスクを複数サーバーで共有して接続することはできません。

※2018年5月7日 時点の情報です。最新の仕様や手順は、Webページをご確認ください。

VMware環境のエクスポート

インポート可能サーバーの仕様・条件を確認する

インポート時、OVFファイルがエラーを起こさずに通過するための条件を確認しましょう。

項目	仕様	ディスク受取サービス利用時
VMware vCenter® Server	4.1以上 ※ 1 下記仮想ハードウェアバージョンをサポートするバージョン	
仮想ハードウェアバージョン	vHW7、vHW8、vHW9、vHW10	
仮想ディスク	仮想ディスクデバイスが1つである	仮想ディスクデバイスが 1～15 個存在する
仮想ディスク	Harddisk1にOS領域	Harddisk2以降にデータ領域が格納されている
仮想ディスク	アダプタータイプがSCSIである	
Harddisk1 (ディスクラベル)	Harddisk1のディスク容量が1GB～500GBである	
Harddisk2 (ディスクラベル)		Harddisk2以降のディスク容量が1GB～1000GBである
仮想CD及びDVDドライブ	CD/DVD driveが1つのみ存在する	
仮想ネットワークアダプター	アダプターが 1 つ以上存在する	
仮想ネットワークアダプター	アダプタータイプが「VMXNET3」「E1000」である	
リソースリミット設定	CPU,Memory,DiskがUnlimitedである	
OSタイプ	ニフクラに対応したゲストOSである	
ゲストOS設定	VMware Toolsがインストールされ、自動起動になっている	
ゲストOS設定	サーバー内のNW設定がDHCPで設定されている	

2018 年5月7日 時点の情報です。最新の仕様や手順は、Webページをご確認ください。

※ 1 ESXi/ESX ホストおよび互換性のある仮想マシンのハードウェア バージョンのリスト (2020181) <https://kb.vmware.com/s/article/2020181>

仮想ディスクデバイスが単一ディスクかどうか確認する

インポート時、コントロールパネルからの「VMインポート」を利用する場合

単一ディスクのサーバーのみインポート可能です。移行予定の仮想サーバーが複数のディスクで構成されている場合は、①ディスクを1本のみにする ②インポート方法を「ディスク受取サービス」(有償)へ変更する のどちらかが必要です。
ディスクの本数は次ページを参考にしてご確認ください。

インポート時、「ディスク受取サービス」(有償)を利用する場合

仮想サーバーのディスク構成は、15ディスクまでインポートが可能となります。

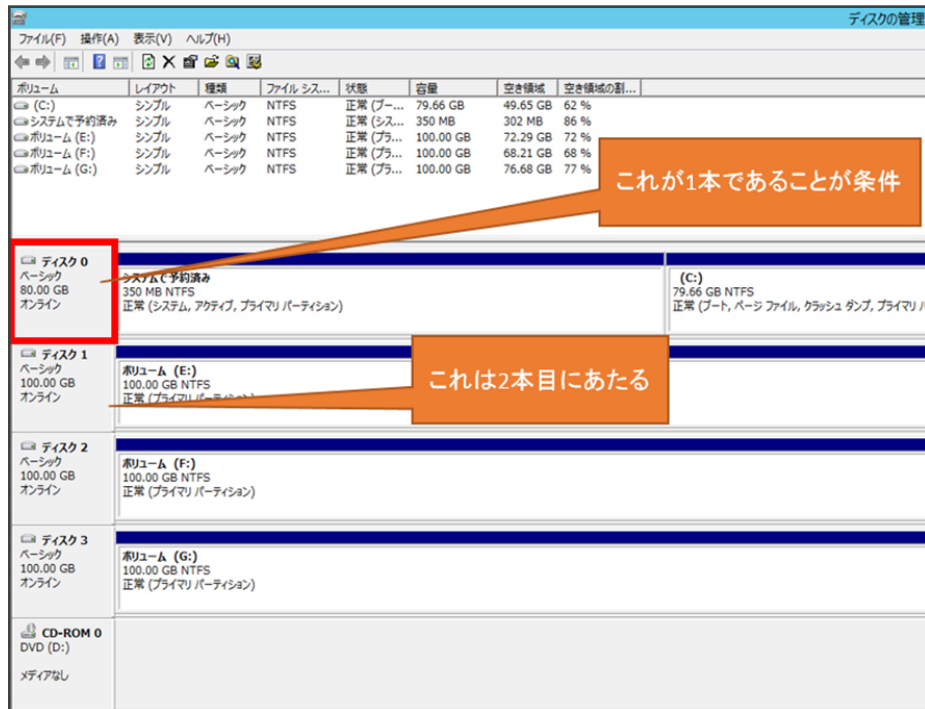
本番移行時はディスク受取サービスを利用する場合でも、移行作業見積もり時の適合作業は単一ディスクを選択し「VMインポート」で行うケースがほとんどです。

VMware環境のエクスポート

仮想ディスクデバイスが単一ディスクかどうか確認する

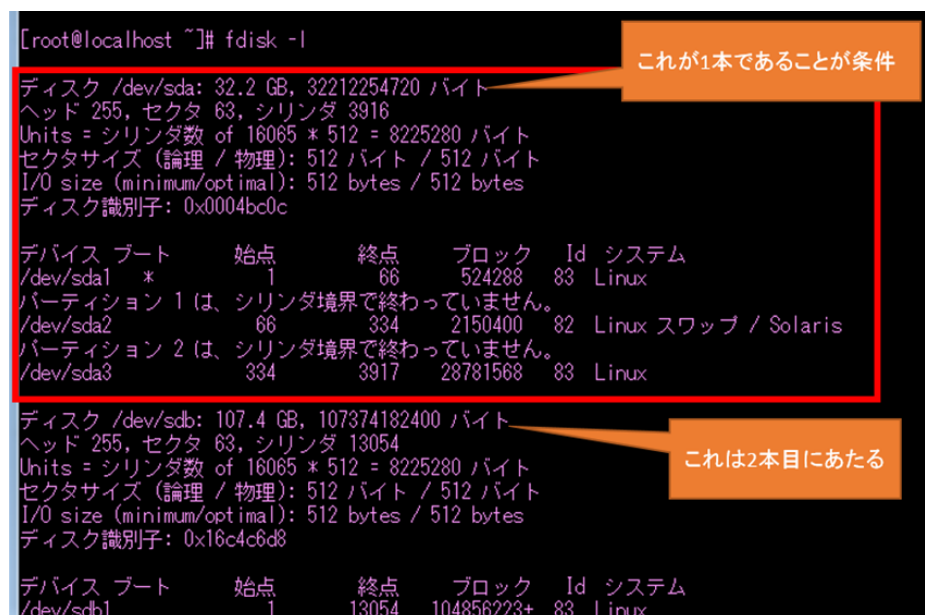
ディスク本数の確認方法

ディスク本数は、ファイルマネージャーおよびコンソール画面からご確認いただけます。



ボリューム	レイアウト	種類	ファイル シス...	状態	容量	空き領域	空き領域の割...
(C:)	シンプル	パーティション	NTFS	正常 (ブー...	79.66 GB	49.65 GB	62 %
システムで予約済み	シンプル	パーティション	NTFS	正常 (シス...	350 MB	302 MB	86 %
ボリューム (E:)	シンプル	パーティション	NTFS	正常 (プラ...	100.00 GB	72.29 GB	72 %
ボリューム (F:)	シンプル	パーティション	NTFS	正常 (プラ...	100.00 GB	68.21 GB	68 %
ボリューム (G:)	シンプル	パーティション	NTFS	正常 (プラ...	100.00 GB	76.68 GB	77 %

ディスク	容量	状態	パーティション
ディスク 0	80.00 GB	オンライン	システムで予約済み 350 MB NTFS 正常 (システム, アクティブ, プライマリ パーティション)
ディスク 1	100.00 GB	オンライン	ボリューム (E:) 100.00 GB NTFS 正常 (プライマリ パーティション)
ディスク 2	100.00 GB	オンライン	ボリューム (F:) 100.00 GB NTFS 正常 (プライマリ パーティション)
ディスク 3	100.00 GB	オンライン	ボリューム (G:) 100.00 GB NTFS 正常 (プライマリ パーティション)
CD-ROM 0	DVD (D:)	メディアなし	



```
[root@localhost ~]# fdisk -l

ディスク /dev/sda: 32.2 GB, 32212254720 バイト
ヘッド 255, セクタ 63, シリンダ 3916
Units = シリンダ数 of 16065 * 512 = 8225280 バイト
セクタサイズ (論理 / 物理): 512 バイト / 512 バイト
I/O size (minimum/optimal): 512 bytes / 512 bytes
ディスク識別子: 0x0004bc0c

デバイス  ブート    始点      終点      ブロック  Id システム
/dev/sda1  *          1         66       524288  83 Linux
パーティション 1 は、シリンダ境界で終わっていません。
/dev/sda2          66        334     2150400  82 Linux スワップ / Solaris
パーティション 2 は、シリンダ境界で終わっていません。
/dev/sda3        334       3917     28781568  83 Linux

ディスク /dev/sdb: 107.4 GB, 107374182400 バイト
ヘッド 255, セクタ 63, シリンダ 13054
Units = シリンダ数 of 16065 * 512 = 8225280 バイト
セクタサイズ (論理 / 物理): 512 バイト / 512 バイト
I/O size (minimum/optimal): 512 bytes / 512 bytes
ディスク識別子: 0x16c4c6d8

デバイス  ブート    始点      終点      ブロック  Id システム
/dev/sdb1          1      13054    104856223+  83 Linux
```

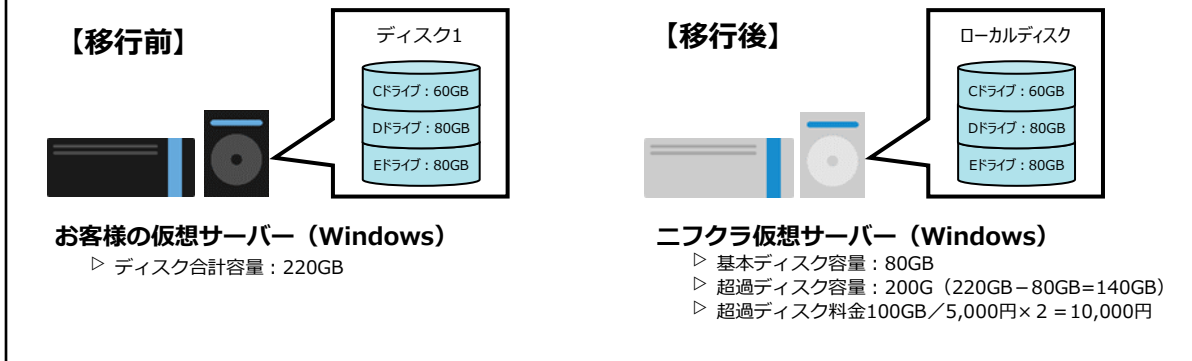
VMware環境のインポート

インポート後の仮想ディスクの容量と料金

VMインポートでインポートしたローカルディスク容量は、変更することはできません。インポート前に、必ずインポート後のローカルディスクの容量と料金の確認を行いましょう。

- ☑ Windowsサーバーの場合、ローカルディスク（Harddisk1）の基本ディスク容量は80GBです。
- ☑ Linuxサーバーの場合、ローカルディスク（Harddisk1）の基本ディスク容量は30GBです。
- ☑ インポートするVMイメージのローカルディスクサイズが基本ディスク容量を超過した場合、100GB単位で超過ディスク料金が発生します。
- ☑ Harddisk1のローカルディスク容量の上限は、500GBです。
- ☑ Harddisk2以降のローカルディスク容量の上限は、1000GBです。
Harddisk2-15は、ディスク受取サービスをご利用の場合のみ対象となります。

ご参考：お客様の仮想マシンがWindowsで、インポートするディスク容量（Harddisk1）の容量が220GBだった場合、インポート後のニフクラ仮想サーバーの容量と料金は次の通りです



VMインポートとディスク受取サービスの特長

インポート時、ニフクラには2つの方法があります。

- ☑ コントロールパネルからの「VMインポート」機能
- ☑ ディスク受取サービス

どちらでインポートするかによって、インポート前の作業であるエクスポートの適合理化で必要な対応やOVFファイルの仕様が異なります。

例えば、インポート可能なディスク数は、VMインポートの場合は1つですが、ディスク受取サービスは15本までです。エクスポートの適合理化を行う前にインポート方法を決める必要があるため、次の特長や選び方を参考ください。



VMware環境のインポート

VMインポートとディスク受取サービスの特長

コントロールパネルからのVMインポート

作成したOVFファイルをお客様自身でニフクラのコントロールパネルからインポートします。特長は次の通りです。

- ☒ OVFファイルの経路は、インターネット（HTTPS）を経由することになります。
- ☒ インポートに時間がかかることがあります。
インポートにかかる時間は、インポートする仮想サーバーの容量・台数・回線の状態の影響を受けます。例えば、仮想サーバーの容量が数百GB～TBクラスで、サーバー台数が20～30VMの規模の場合では、ディスク受取サービスと比較するとVMインポートの方が時間がかかることが一般的です。
- ☒ インポート後のサーバー設定状況の検証を行いやすい。
コントロールパネルでのインポート後、引き続きインポートしたサーバーの設定状況のチェックができます。
ディスク受取サービスの場合は、ニフクラ側がインポートディスクを受け取りインポートを行います。その後、ニフクラからの作業完了の連絡を受けてからサーバーの設定状況の確認作業となるため、時間がかかります。
- ☒ 追加の費用が発生しない。
ディスク受取サービスとは異なり、インポートの費用が発生しません。
- ☒ 最新の仕様や手順は、Webページをご確認ください。
▷ VMインポート
<https://cloud.nifty.com/service/vmimport.htm>

ディスク受取サービス

OVFファイルを作成後、ポータブル記憶装置をニフクラへ郵送していただきます。
ニフクラが、お客様のアカウントに、OVFファイルのインポート作業を代行して行います。

- ☒ 大きなサイズのファイルをクラウドに転送する場合に、転送時間を短縮できます。
ファイルサーバーなど、大容量データやVMイメージのクラウドへの転送は、一般的に多くの時間を必要とします。
ディスク受取サービスを利用すると、多くの場合においてクラウドへの転送時間を短縮できます。
- ☒ クラウドへの大容量のデータやVMイメージ移行を安価に実現できます。
実際に大容量のデータやVMイメージを移行する際に必要な一般的なSE費用に比べ、安価に移行可能です。
- ☒ インターネットを利用しないため、ネットワーク帯域などインターネット環境に負荷をかけることはありません。
- ☒ 2018年5月7日時点での仕様は次の通りです。さらに詳しい仕様や手順は、仕様書をご確認ください。
▷ VMインポート
https://cloud.nifty.com/pdf/post_spec.pdf

転送に利用するディスク媒体	型番	Buffalo「HD-LL2.0U3-BK」
	インタフェース	USB 2.0/3.0
	サイズ	3.5インチ
転送に利用するディスク媒体の容量		2TB/ディスク
一度に送付可能なディスク容量		4TB（2TB×2本）
転送可能なニフクラ上のストレージ種別		増設ディスク

※2018年5月7日 時点の情報です。最新の仕様や手順は、Webページをご確認ください。

VMware環境のインポート

VMインポートとディスク受取サービスの選び方

インポート方法の選び方

2つのVMインポートの方法の選び方は下記をご参考ください。

	コントロールパネルからのVMインポート	ディスク受取サービス
リードタイム	転送容量や台数が少ない場合は、リードタイムはディスク受取サービスと比較して短い	転送容量や台数が多い場合は、リードタイムは他の手法と比較して短い
転送を命令してから完了するまで速度	ディスク受取サービスよりも遅い	管理画面より早い (ただし、媒体郵送には時間がかかる)
複数ディスクのインポート	できない	できる (上限15本まで)
移行可能なOS	ニフクラの通常の持ち込み仕様の通り	ニフクラの通常の持ち込み仕様の通り
費用	ディスク受取サービスよりも安い	管理画面よりも高い
向いている状況	転送容量/台数が少ない場合 (例 5台以下or累計1TB以下)	複数ディスクの場合、転送容量/台数が多い場合 (例 5台以上or累計1TB以上)

※2018年5月7日 時点の情報です。最新の仕様や手順は、Webページをご確認ください。

コントロールパネルからのVMインポート方法を確認する

【1】コントロールパネルにログイン後、「VMインポート」ボタンをクリックします。

インポートするVMイメージのOVFファイルを「参照」ボタンをクリックして指定します。



【2】作成するサーバーのゾーンとタイプを選択します。



VMware環境のインポート

コントロールパネルからのVMインポート方法を確認する

【3】サーバー名や料金プランなどの項目を設定し、「確認」ボタンをクリックします。

- ▷ サーバー名：作成するサーバーに名前を設定します。
- ▷ メモ：メモ情報を設定します。
- ▷ 料金プラン：サーバーに適用する料金プランについて、「月額」「従量」のいずれかを選択します。
- ▷ グローバルIP：「自動割り当て」「利用しない」を選択します。「利用しない」を選択するとインターネットからのアクセスは遮断されます。
- ▷ ファイアウォール：サーバーに適用するファイアウォールを設定します。「適用しない」を選択した場合、全ての通信が許可されます。※ボタンクリックで新規に作成することができます。



VMインポート

01 OVFアップロード 02 サーバータイプ選択 03 サーバー設定 04 確認

サーバーの設定情報を入力します。

- サーバー名: AAAserver001 (※英数字1~15文字)
- メモ: AAAserver001のOVF (40文字以内)
- 料金プラン: 月額
- グローバルIP: 自動割り当て
- ファイアウォール: 適用しない

プライベート IP アドレスは自動割り当てされます。
付随 IP アドレスを利用する場合には、サーバー作成時に設定変更をお願いいたします。

< 戻る キャンセル 確認

【4】サーバー名や料金プランなどの項目を設定し、「確認」ボタンをクリックします。クリックすると、Javaアプリが起動します。



VMインポート

01 OVFアップロード 02 サーバータイプ選択 03 サーバー設定 04 確認

以下の内容でサーバーを作成します。

- イメージ選択: OVF AAAImage.ovf
- サーバータイプ選択: ゾーン east-11, サーバータイプ vmul2
- サーバー設定:

サーバー名	AAAserver001
メモ	AAAserver001のOVF
料金プラン	月額
グローバルIPアドレス	自動割り当て
ファイアウォール	適用しない

金額	項目名	タイプ	金額 (税別)
VMインポート	mini		¥7/時
	Microsoft Windows Server		¥6/時
	超過ディスク		¥8/時
IP アドレス減価			¥-0.6/時

※本ページに記載の料金はすべて税別表示価格です。
詳しくは、料金表の価格表示についてをご覧ください。

料金プランが「月額」のため、サーバー起動日時などに問わず、ご利用料金は月額料金となります。日割計算はいたしません。

ファイアウォールが適用されないため、全ての通信が許可されます。

< 戻る キャンセル インポート

【5】「VMインポート VMDKファイルアップロード」ダイアログが表示されます。インポートしたいVMDKファイルを選択し、「アップロードする」ボタンをクリックしますとアップロード処理を開始します。アップロードが完了すると「VMDKファイルアップロード」ダイアログに完了と表示されます。閉じるをクリックしてください。



VMインポート VMDKファイルアップロード

- サーバー名: impSv001
- VMDKファイル: CentOS62x8664-disk1.vmdk (参照)
- 進捗: 0-49%

キャンセル アップロードする

移行計画策定時にチェックしておくべきこと

移行計画にあたり、必要な工数を十分に確認する

VMware環境移行の手順は、移行計画策定、移行作業の見積もり、リハーサル、本番環境の移行の4つ手順に分かれます。全体のスケジュールには、必ずこの4手順を組み込みましょう。特に、移行作業の見積もり段階には、インポート・エクスポートの検証を行い、その結果を十分に考慮して本番移行に移れるような日程を組みましょう。

最後に、これまでに実際に行われた移行事例を振り返り、移行計画策定にあたり重要となるポイントをまとめました。VMware環境移行を成功に導くためにも、必ずご確認ください。

移行計画策定のポイント

- ☑移行計画には、移行作業の見積もりを必ず行いましょう。
本番移行での計画遅延の原因のほとんどは、この見積もり作業を行うことでなくすことができます。
- ☑Windows2000はニフクラのSPLAライセンスではダウングレード権が適用されます。そのため、インポート可能ですが、すでにサポートが終了したOSであり、ニフクラ上での稼動も保証外となります。
- ☑インポート手順では、予期せぬエラーが発生します。
リハーサルなど、必ずリトライ可能な期間を設けた移行計画を策定しましょう。
- ☑インポート時、コントロールパネルからのVMインポートはお客様自身が行います。
お客様にて柔軟なスケジューリングが可能ですが、容量や台数によってはインポートに時間がかかります。移行作業の見積もりの際に転送時間の計測を行い、容量と台数を踏まえた転送時間を把握し、本番移行のスケジュールに盛り込みましょう。
- ☑ディスク受取サービスをご利用の際は、必ずリハーサル時にコントロールパネルからのVMインポートを行い、成功する形式を、お客様にてご確認ください。
移行作業の見積もり時のインポート検証に成功しないまま、本番環境へのディスク受取サービスでのインポート作業を行うと、本番移行時に初めてインポートエラーが発生した場合、想定外の対応が必要となってしまいます。適合作業・エクスポート・インポート全ての工程がやり直しとなり、スケジュールが大幅に遅延します。
必ず、移行作業の見積もり時に検証を行い、インポートが成功していることを確認してください。
- ☑ディスク受取サービスでは、1回のお申込でお貸し出しするデータ転送用のポータブル記憶装置は最大2台です。3台以上の場合は移行計画策定時に必要な日数をご確認ください。
- ☑ニフクラ上でのOracle製品のご利用については、オラクル社の事前承認が必要です。また、オラクル社の承認後はニフクラ側での設定作業が必要です。設定作業は営業日のみの対応となりますので、移行計画策定時に必要な日数をご確認ください。

※2018年5月7日 時点の情報です。最新の仕様や手順は、Webページをご確認ください。

